

---

口頭発表

[XIII-29-14\_15] 管理・環境，畜産経営，動物介在（XIII-午後）

座長:出口 善隆(岩手大農)

2019年3月29日(金) 13:00 ~ 13:20 第XIII会場 (8号館8601講義室)

---

13:00 ~ 13:10

[XIII29-14]スナネズミにおける高架式十字迷路での行動の系統および毛色差

○甲斐 藏, 朝倉 千尋, 武田 美菜子, 篠崎 明日香 (日大生資科)

【目的】第124回大会において，スナネズミ（*Meriones unguiculatus*）4系統を用いて10，15，20週齢時に，てんかん様発作発現とオープンフィールド（OF）上の行動を比較した。結果として，発作発現テストでは，市販群は発現レベルが高く持続時間も長かった。OFでは，壁の有無にかかわらず，滞在時間は外側区画の方が長かった。特に「壁あり」の場合，研究室3群は市販群より長く滞在した。以上，系統間の行動上の差異を示した。今回は同4系統を用いて，高架式十字迷路（EPM）での行動をてんかん発現と関連して比較した。【方法】市販群(MON/JmsGbsSlc；日本エスエルシー社)と研究室維持の野生色，黒色およびアルビノ群の合計4群各雄8頭を用い，10，15，20週齢時に，EPM法では明（通常飼育光，走路上400Lux）と暗（0 Lux）条件下で市販（室町機械（株））に5分間置き，オープンとクローズアームの滞在時間，ヘッドディップ，立上り，落下，糞尿の各回数を記録した。てんかん発現テストは「手の上に乗せる」方法で行った。潜時と持続時間を測定するとともに，症状の強さは5段階に分けた。【結果】発作発現テストでは，市販群は研究室3群より発現割合やレベルが高かった。EPMでは，明暗条件下での基本的な差は認められなかった。市販群はオープンアームでの滞在時間が長く，一方研究室群は短かった。